
令和5年度 朝来市議会 高校生議会 会議録

令和5年8月3日（木曜日）

議事日程

令和5年8月3日 午後1時05分開会

- 日程第1 会議録署名議員の指名
日程第2 会期の決定
日程第3 一般質問
-

本日の会議に付した事件

- 日程第1 会議録署名議員の指名
日程第2 会期の決定
日程第3 一般質問
-

高校生議員（18名）

1番 大橋佳生君	2番 田中佑奈君
3番 山内琉以君	4番 中島陽南君
5番 羽瀧蒼空君	6番 小田垣咲那君
7番 藤原心優君	8番 夜久柊真君
9番 安田陽菜君	10番 太田一颯君
11番 米田蒼依君	12番 マファルダ・ピアンカ君
13番 森千耀君	14番 白箸理一君
15番 田村奈緒君	16番 衣川功樹君
17番 木下蒼一朗君	18番 岩崎愛梨君

市議会議員（18名）

上田幸広君	横尾正信君
松井道信君	水田文夫君
加藤貴之君	関綾乃君
吉田俊平君	尾崎里美君
藤原正伸君	足立義美君
森田龍司君	浅田郁雄君
藤本邦彦君	日下茂君

森 下 恒 夫君
 洩 本 稔君

嵯峨山 博君
 西 本 英 輔君

来 賓（3名）

市長 ————— 藤 岡 勇君 副市長 ————— 天 野 修 二君
教育長 ————— 小倉畑 祐 貴君

事務局出席職員職氏名

議会事務局長 ————— 宮 元 広 司君 議会事務局次長 ————— 榎 谷 進 一君
議会事務局議事係長 ——— 竹 村 真 一君 議会事務局主査 ————— 大 林 厚 之君

午後 1 時05分開議

○議会事務局長（宮元 広司君） 皆さん、こんにちは。定刻となりましたので、ただいまから、令和5年度朝来市議会高校生議会を始めさせていただきます。

最初に、主催者を代表し、朝来市議会、西本議長が御挨拶申し上げます。

○議長（西本 英輔君） 皆さん、こんにちは。朝来市議会議長の西本英輔です。高校生議会の開催に当たり、市議会を代表し、一言申し上げます。

高校生議会は、令和3年度に本市議会の100回記念事業として開催し、以後、毎年開催しており、今回で3年目の開催となりました。本年も、県立生野高校、県立和田山高校の生徒の皆様へ、高校生議員として御出席いただいております。勉強やクラブ活動で大変お忙しい中にもかかわらず、本日の向けて御準備いただき、誠にありがとうございました。

また、開催に当たり、多大な御協力をいただきました、生野高校の藤原校長先生、和田山高校の小川校長先生をはじめとされます両高校の関係者の皆様方に、この場をお借りいたしまして、厚く御礼申し上げます。

さて、高校生議会は、模擬議会を通じて朝来市の未来を担う高校生の皆様の政治や地方自治への意識醸成を目的とし、自分たちの暮らす地域の課題や将来のまちづくりなどについて、高校生の視点から御質問や御提案をいただき、それに対し、当議会の市議会議員が答弁を行うものです。事前に皆様からいただきました質問通告書を拝見いたしますと、高校生らしい若い視点から、様々な内容で通告されております。昨年、一昨年もそうでしたが、皆様からの若い発想は、私ども議員にとってははっと気づかされるもの、刺激を受ける内容のものが多くあり、議会活動、議員活動を行う上で非常に参考となる貴重なものです。本日、高校生議員の皆様がどのように発言されるのか、非常に楽しみにしております。

また、本日は来賓として、藤岡市長、天野副市長、小倉畑教育長にも御臨席いただいております。御多用の中、お時間を頂戴し、会に花を添えていただきましたこと、心より感謝申し上げます。

結びとなりますが、本日の質問や答弁、そして経験が、高校生の皆様の将来、朝来市の未来に

とって有意義なものになることを御祈念いたしまして、簡単ではございますが、高校生議会開催に当たりましての挨拶に代えさせていただきます。本日は、よろしく願いいたします。

○**議会事務局長（宮元 広司君）** ありがとうございます。

次に、御来賓を代表して、朝来市長、藤岡勇様から御挨拶をいただきます。

○**市長（藤岡 勇君）** 皆さん、こんにちは。市長の藤岡でございます。

本日は高校生議会へ御参加いただき、誠にありがとうございます。

皆様は議員として一般質問に臨まれるわけでございます。この質問内容につきましては、私も拝見させていただきました。自分たちが暮らす地域の課題、そして、将来のまちづくりのために欠かせないものでございました。本当に、私も参考になる一般質問の内容でもありました。

今日という日をきっかけに、皆さんがさらにまちづくりに興味を持ち、そして、思い出に残るすばらしい経験になりますよう御祈念を申し上げまして、簡単ですが挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしく願いいたします。

○**議会事務局長（宮元 広司君）** ありがとうございます。

ここで、御来賓の方を御紹介いたします。

先ほど御挨拶をいただきました藤岡市長のほかに、朝来市副市長、天野修二様、朝来市教育長、小倉畑祐貴様、御臨席いただきまして誠にありがとうございます。

それでは、開会までしばらくお待ちください。

午後 1 時 11 分休憩

午後 1 時 13 分再開

○**議長（岩崎 愛梨君）** 議長に就任しました生野高等学校の岩崎愛梨です。不慣れではございますが、皆様方の御協力をいただき、円滑な議事運営に努めてまいりますので、よろしく願います。

ただいまの出席議員 18 名、定足数に達していますので、令和 5 年度朝来市議会高校生議会を開会します。

本日の議事日程はお手元に配付しているとおりであり、朗読は省略させていただきます。

これから、本日の会議を開きます。

日程第 1 会議録署名議員の指名

○**議長（岩崎 愛梨君）** 日程第 1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員に、1 番、大橋佳生君、4 番、中島陽南さんを指名します。

ここで、報道機関、学校広報担当者、市広報担当、市ケーブルテレビセンター、広聴広報常任委員会及び議会事務局から写真撮影の申出がありますので、これを許可します。

日程第 2 会期の決定

○**議長（岩崎 愛梨君）** 日程第 2、会期の決定を議題とします。

お諮りします。

本議会の会期は、本日1日限りとしたいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（岩崎 愛梨君） 異議なしと認めます。

本議会の会期は、本日1日限りと決定しました。

ここで、本日の議事運営について申し上げます。

本日の一般質問は、通告第1番から通告第16番までとします。

通告第8番が終了後、休憩し、議長を交代します。

また、質問方式は、1人、一問一答のみとし、追加の質問は認めません。答弁については、市議会議員が行いますので、御了解願います。

日程第3 一般質問

○議長（岩崎 愛梨君） それでは、日程第3、一般質問を行います。

最初に、通告第1番、中島陽南さんの一般質問を許可します。

議席番号4番、中島陽南さん。

○議員（4番 中島 陽南君） それでは、私、中島陽南の、高齢化対策についての一般質問を始めてみます。

現在、朝来市では高齢化が進んでいます。2020年の国勢調査によると、総人口2万8,989人のうち、65歳以上の高齢者の人数は1万351人となっていて、年々その割合は増加している傾向があります。高齢化が進むことで、核家族化も進み、共働きの家庭であれば、昔のように大家族で家族の誰かが高齢者の介護をするということが難しくなっています。また、独り暮らしをしている高齢者は2,000人以上、高齢者のみの世帯は1,500世帯以上となっていて、どうしても介護サービスを利用する必要があります。しかし、特別養護老人ホーム等の空きがなく、入居が難しいという話を聞いたことがあります。実際に調べてみると、入居待ち待機者数が100名以上という施設が多くありました。施設で働く介護スタッフを増やしたり、施設自体を増やすことが必要なのかもしれませんが、高齢化という現状を考えると、人手不足という問題も出てきます。このような高齢化に伴った高齢者の介護問題について、市として何か対策しているところはありますか。

○議長（岩崎 愛梨君） 足立義美議員、答弁願います。

○足立 義美君 皆さん、こんにちは。足立です。

それでは、中島陽南議員の質問にお答えいたします。

高齢化が年々進む朝来市にあっては、高齢者介護問題は避けて通ることができません。おっしゃるように、核家族化が進み、家族の誰かが介護することには多くの課題があります。そこで、介護サービスを利用することになると思いますが、特別養護老人ホームの入居待ちの方も多く、入居が難しい状況も指摘されております。このような背景がある中で、朝来市として、介護問題について何か対策をしているのかという質問です。

朝来市は、令和5年3月末現在で、独り暮らしをされている高齢者は2,355人。高齢者のみの世帯は1,704世帯となっております。また、本市の要介護認定者数は、近年ほぼ横ばいで推移し、令和5年3月末現在で2,318人がおられます。認定率にいたしますと、22.2%。5人に1人以上の方が介護が必要な方と、こういうふうなことになりますね。

特別養護老人ホームの入居待ち、待機者が多いということについて申し上げます。申込みに係る最近の傾向は、なぜ減少しているのかよく分かりませんが、令和5年4月1日現在で、いろいろと特別養護老人ホーム、各町に大体ありますけども、そういうのを全て寄せますと、5施設合計で255人となっております。重複して施設入所を希望される場合があり、実申込者はさらに減少し、152人ということになっております。少しでも早く入って、家の介護も大変だということで、この施設にもお願いして、早く空いたほうの施設に行こう、こういうようなこともあります。それで、結果的に朝来市内では152の方が入居を持っておられる、こういうことです。その申込者の内訳は、在宅からの申込者が61人、老人保健施設やグループホーム、ケアハウスなどの施設からの申込者が50人、病院からの申込者が41人となっております。

少子高齢化が進む中で、老老介護という課題があります。老老介護とは、介護を要する65歳以上の高齢者を65歳以上の高齢者が介護されている状態のことを指します。今後も、少子高齢化がさらに進むことが考えられて、大変深刻な問題です。

健康寿命という言葉、聞かれたことがあると思います。お年寄り、できる限り自宅で暮らしたいという方が多いようです。市としては、生涯にわたり住み慣れた地域で、健康で幸せに暮らし続けられるよう、地域社会全体で介護予防や支え合い運動などに取り組むことが重要であると考えております。市では、高齢者が生きがいを持って、安心・安全に自分らしく生活できるまちづくりを目指し、各種サービスを一体的に提供する、地域包括ケアシステムの実現に向け取り組んでいます。

また、高齢者の健康維持と予防を促進するために、健康教室、健幸づくりポイント事業がある、時間がないようですね、若干省略させていただきます。若い力を市政に反映することは大変重要なことです。

今日、いろいろと貴重な意見をいただきました。中島議員が心豊かなすてきな大人になられますよう願って答弁いたします。

○議長（岩崎 愛梨君） 以上で、中島陽南さんの一般質問は終了しました。

次に、通告第2番、羽瀨蒼空君の一般質問を許可します。

議席番号5番、羽瀨蒼空君。

○議員（5番 羽瀨 蒼空君） それでは、私、羽瀨蒼空の、朝来市の子供の医療費助成の所得制限についての一般質問を始めます。

現在、朝来市には乳児医療費助成、こども医療費助成、高校生等医療費助成があり、これら全てに所得制限があります。

私の妹は小学生で、心臓の病気を患って通院しています。さらに、私は3人兄弟なので、私たちが養っていくために両親は共働きです。なので、両親はどうしても一定以上の所得を超えてしまい、

助成が受けられず、医療費を負担しています。

このように、子供がいて、養っていくために両親が共働きで、ある一定以上の所得を超えてしまい、両親の負担が大きくなる家庭はたくさんあると思います。

そこで、そのような家庭の負担軽減のために、所得制限の制限基準の変更、もしくは撤廃することは可能でしょうか。

○議長（岩崎 愛梨君） 嵯峨山博議員、答弁願います。

○嵯峨山 博君 それでは、羽瀨蒼空議員の御質問にお答えをさせていただきます。

こども医療費などの助成に対して、所得制限の基準の変更、もしくは撤廃ができないかというような内容の質問でございます。

本市では、一定以上の所得を超えて助成を受けられない市民の方というのは約1割であったというふうに思っております。できるだけ早く実現しなければならない重要な課題であるというふうなことで認識もしております。国内では、安心して子供を産み、育てられるように、保護者の所得に関係なく、全ての子供を対象に医療費助成などを行うため、撤廃を行っている自治体、あるいは準備を進めている自治体がございます。

兵庫県内の状況を申しますと、令和4年度の数値になりますけれども、41市町のうち、こども医療費助成につきましては21市町が撤廃をしております。約半数の自治体が所得制限を撤廃しているというような状況でございます。これらのことから結論を申しますけれども、撤廃はできるものというふうに考えております。

現在、本市では、本年7月1日より、高校生等医療費助成事業の拡充を行うこととなりました。議員御承知のとおり、これまでは入院医療に対し助成をしていたものを、通院に対する医療費まで助成を行って、自己負担をなくすものであります。子供は本市の宝であり、未来への投資というような考えの下、医療費拡充の提案をしまいましたが、国民健康保険加入者の保険料の負担の問題、あるいは安定した財源の問題、そういったものがございまして、長年、当局と協議を行ってきまして、財源につきましては、ふるさと創生基金を活用させていただいて、所得制限の基準の課題はありますけれども、ようやく実現したものであります。

国におきましても、こども・子育て政策の強化として支援が示されておりますけれども、いろいろな課題がある中の一つとして、子育ての経済的・精神的な負担感や子育て世帯の不公平感、そういった存在するといった課題も上げられておりますので、これらの動向も注視しなければならないというふうに思っております。

また、政府機関により、こども家庭庁が本年4月に設置されたことにより、本市でも各関係課に少子化対策担当職員を配置して、少子化対策、こども・子育て政策に対して取り組むプロジェクトチームが発足しております。そうした状況下でありますので、喫緊に取り組まなければならない問題、あるいは早期に解決しなければならない問題であるというふうに認識してございます。

先ほど来から繰り返し申し上げておりますけれども、所得制限の基準の撤廃を行うことによる財源等の問題、そういったこともございますので、少しお時間を頂くことになるかもしれませんけれ

ども、重要な課題と捉え、さらに実現に向けて、今後、当局と協議をさせていただきたいというふうに思っておりますので、御理解いただくことをお願い申し上げまして、以上で答弁とさせていただきます。よろしく申し上げます。

○議長（岩崎 愛梨君） 以上で、羽渕蒼空君の一般質問は終了しました。

次に、通告第3番、小田垣咲那さんの一般質問を許可します。

議席番号6番、小田垣咲那さん。

○議員（6番 小田垣 咲那君） それでは、私、小田垣咲那の、朝来市の活性化についての一般質問を始めます。

現在の朝来市の人口は、平成12年から減少し、去年は2万9,467人。今年は2万8,912人と、1年でも1,000人近く減少しています。加えて、空き家が増加し、全体の18.3%を占めていること。電車の利用が、平成2年から減少して、老朽が進んでいることなどの問題が上がっています。このことで、市内に住む人が不便に感じたり、市外から人が来ない原因になっていると思いました。

そこで、何か改善できることがないかと考えてみました。

一つ目は、空き家や跡地の活用です。私の住むまちの近くに、空き家をリメイクした「本は人生のおやつです」という本屋があったりと、ところどころで活用しているのを見ます。しかし、同じく私の住むまちの近くには、家や大きな施設の跡地が今も特に動きがないままあります。そのような土地を利用して、人を呼ぶような施設をつくるのはどうかと思いました。空き家の増加によって、さらに人口の減少や取り壊しの人員不足にならないように考える必要があると感じました。

二つ目は、駅の活用です。利用者は減少していますが、私も含め、交通手段として必要な人もいます。なので、駅に着いたら、ふらっと寄れるカフェやコンビニなどの場所を確保するのはどうかと思いました。

あくまでも個人の意見であり、人手や費用のことなどもありますが、これからの朝来市の活性化のために何か動かれていることはありますか。

○議長（岩崎 愛梨君） 森田龍司議員、答弁願います。

○森田 龍司君 それでは、小田垣咲那議員の質問についてお答えします。

まず、小田垣議員が、今回の高校生議会に参加いただいたことと、朝来市の活性化のために、大変貴重な意見をいただいたことに心から感謝と敬意を表します。

さて、小田垣議員からは、急激な人口減少により、空き家が増加。電車の利用者数が減少して、電車や駅舎の老朽化が進んでいることなどから、市内に住む人が不便を感じたり、市外から人が来ない原因になっているのではないかという指摘です。

まちの活性化のためには改善が必要であるとして、空き家と駅舎の活用から、人の動きをつくり、人が集まる提案をいただきました。例えば、循環、回ること。一回りすることを循環といいます。そして、循環には、よい循環と悪い循環があります。まさに、小田垣議員が指摘されている、人がいなくなって、空き家が増加して、電車を利用する人も減少したことで、不便を感じる人が多くなり、暮らしにくさを感じたり、人々の希望や気力まで減少してしまうことになりかねない。この

循環がまさしく悪循環です。そして、朝来市の活性化のためには、この悪循環を好循環にさせなければなりません。それにはどうすればよいかということが、今回の小田垣議員の質問であります。

今年も、出生数がまた減った。空き家も増えた。お店がまた閉まった。これが問題だからどうしようかという対策づくりに走ってはなりません。それは、空き家の増加や、お店の閉店や、出生数の減少も、問題の症状として現れているからです。その問題の症状だけを見て、対策を考えてしまうと、それはただの対症療法になって、問題の解決にはつながりません。駅の活用もそうですね。小田垣議員が提案するように、電車の利用者だけを対象にするのではなく、コンビニやカフェのように、駅に多くの人が立ち寄れる場所にすることが大切です。

ある企業は、新しい暮らしの形の実現として、好きなときに好きな場所で暮らしたい。都市と地方の複数の拠点で生活をしてみたい。各地の自然と触れ合い、その土地の暮らす人たちと出会い、交流もできるというコンセプトで、全国の自治体と連携をして、空き家を活用して、多拠点生活を当たり前にするビジネスモデルを提供しています。

私は、こうした企業と連携をして、空き家を活用することで、交流人口が増える、新たな地域コミュニティや地域力の向上や移住定住にも備えることで、活性化が図られることが大切だと思っています。

まちの活性化とは、元気で勢いが感じられる、生き生きしている、新しい動きが次々と起こって、わくわく感を感じるまちです。人は動きのあるところに引きつけられるように、動きがあるまちには若者が集まってきます。まちの移住者も入ってきます。この動きが活発になることが活性化です。朝来市が、まちの活性化のために動いていることは、朝来市が目指す将来像である、人と人がつながり、幸せが循環するまちの実現に向けた取組です。ただ、みんなで将来像を決めたんだ。だからみんなで力を合わせて、そこを目指していこうよ。どんなことがあってもやり遂げるんだという、この動きを活発にする、ちょっとマネジメントが不足している、ここがちょっと課題のようなことに思っています。

今日は、この動きを評価しなくては活性化につながらないということを、小田垣議員から教えていただきました。小田垣議員には、朝来の将来を生き生きとわくわくするまちにするにはどのようにすればいいかという貴重な提案をいただきました。本当にありがとうございました。

○議長（岩崎 愛梨君） 以上で、小田垣咲那さんの一般質問は終了しました。

次に、通告第4番、太田一颯君の一般質問を許可します。

議席番号10番、太田一颯君。

○議員（10番 太田 一颯君） それでは、私、太田一颯の、朝来市の人口減少対策について一般質問を始めます。

朝来市の人口が年々減少している傾向があります。市のホームページにある人口世帯数のデータによると、令和元年度3月末の人口は3万76人、令和2年度は2万9,525人、3年度は2万8,971人、4年度は2万8,516人となっています。全国的に地方の人口減少や少子高齢化が問題となっており、朝来市も例外でないことが分かります。全国的に地方の人口減少に歯止めをかけるにはどうしたら

よいのか。朝来市の特性を生かした人口減少抑制策を持ったまちづくりをする必要があると思います。

そこで、20代、30代の出産・子育て世代を中心とした層をターゲットとして、移住による人口増加と出産による人口増加を考えてみてはどうですか。例えば、朝来市と地理的には似ている岡山県と鳥取県の境目にある奈義町という町は、総人口、令和5年6月時点では、5,482人と小さなまちですが、平成24年度に奈義町子育て応援宣言を出し、出生率を伸ばしています。平成17年当時は、出生率1.41であったが、子育て応援宣言後の平成26年度は2.81、令和元年度は2.95となっています。その支援策は、在宅育児支援手当として、保育園に入園していない家庭児童1人につき、月1万5,000円の支給、高等学校等就学支援として、年額13万5,000円を3年限度で支援。18歳までの医療費の自己負担を奈義町が負担などの様々な施策を行っています。朝来市においても同様の支援策があると思いますが、市内外に広く宣言するためにも、より大きな宣言効果の期待できる支援策を講じる必要があります。このような朝来市の子育て支援によるまちづくりによって、移住を希望する若者世帯の増加、出生率増加による人口増加が期待できると私は思います。

市として、今後の子育て支援と人口減少抑制をどのように考えるのか、方針を伺いたいです。

○議長（岩崎 愛梨君） 横尾正信議員、答弁願います。

○横尾 正信君 それでは、太田一颯議員の質問にお答えいたします。

朝来市が抱える最大かつ最重要の課題に対して、よく考えた積極的な提案をいただきました。人口減少の歯止め策として、岡山県奈義町のように、若者移住の推進と出生率の向上策を取るべきとの提案でございます。

さて、朝来市の人口減少は、皆さんの、あるいは私たちの想像以上に深刻で、すさまじいものがあります。21世紀の地球は、人類の最後の人口爆発の時代ですが、東アジアの日本、中国、そして朝鮮半島だけは、世界に先駆けて、急速な人口減少の時代に入りました。その中でも、私たちの但馬と朝来市は、今後の100年間、毎年2%以上という。世界最先端のスピードで人口が減少していきます。朝来市の人口は、2065年には1万2,000人、22世紀には5,000人以下に激減します。太田議員がお住まいの生野町では、2065年には、僅か700人にまで減少し、22世紀にまちが残っているかは分かりません。多少の対策では、この歴史的なトレンドは変わりません。さて、どうすればよいでしょうか。

岡山県奈義町の採った方針の本質は、隣の人口10万人の津山市という大きなまちのベッドタウン化なのであります。しかし、朝来市には、依存すべき大きな都市が近くにはありません。

日本という国の人口減少の理由は、毎年の出生率の低下によって、出生数が死亡数を下回るようになったことです。

しかし、朝来市の人口減少の最大の理由は、国とは違って、出生数の減少でも、出生率の低下でもありません。朝来市の出生率は全国でも高いのです。あなた方、若者人口の流出が最大の要因なのであります。進学や就職で朝来市を離れた若者が、その後、ふるさとに帰ってこない。あるいは、来られないということでございます。つまり、希望する就職先がない、あるいはやりがいのある仕

事が少ないというからであります。

太田議員、将来、あなたが、例えば大学を卒業されたとき、喜んで帰ってこられるまちをつくる。このことこそ、朝来市が採るべき最高の人口減少対策だと私は考えます。私は、あなたが帰って来られない分を移住者で置き換えて、都合合わせをするようなまちづくりをしたくはありません。これが親の気持ちではないでしょうか。私も、議会も、そのようなまちをつくるために、全力を尽くすことをお約束いたします。

以上です。

○議長（岩崎 愛梨君） 以上で、太田一颯君の一般質問は終了しました。

次に、通告第5番、米田蒼依さんの一般質問を許可します。

議席番号11番、米田蒼依さん。

○議員（11番 米田 蒼依君） それでは、私、米田蒼依の、JR播但線の利用促進策についての一般質問を始めます。

昨年4月、JR西日本が、利用者の少ないローカル線の収支状況を公表しました。そして、朝来市では、播但線の和田山駅から寺前駅間が該当していて、コロナ前の2019年度の時点で、利用者が1日2,000人を下回っており、赤字額は7億3,000万円となっています。それは、少子高齢化による人口減少やモータリゼーション社会における自動車利用の増加によるものだと考えられます。

しかし、一方で、自動車を運転することができない児童生徒や高齢者の人たちの交通手段として、播但線は必要不可欠だと言えます。よって、播但線は残さなければならない。これは広い意味での社会福祉だとも言えるのではないのでしょうか。

そのためには、まず赤字を減らす。可能ならば、黒字化にする必要があり、利用者の増加策を考えることが重要です。

そこで、駅や電車内でのイベントやキャンペーンとして、季節に合った駅弁販売、イベントを駅で開催し、鉄道利用を呼びかけることで活性化を目指せると思います。ほかにも、子供向けにキャラクターの電車、観光地をモチーフとした電車を走らせるなど、たくさんの人に興味を持ってもらえるようになれば、利用者が増加するのではないかと考えます。

それを踏まえ、市としては、今後の経営改善に向けてどのような対策、見直しを持っておられるのか、お伺いしたいです。

○議長（岩崎 愛梨君） 淵本稔議員、答弁願います。

○淵本 稔君 それでは、生野高校2年、米田蒼依議員の御質問にお答えいたします。

生野高校におかれましては、自己を知り、自己に培い、社会を知り、社会を愛せという学校理念の下、ゆめいくプロジェクトをはじめ、地域に飛び込み、地域に愛される取組を進めておられることに、心から敬意を表します。

さて、御質問のJR播但線の利用促進策については、大変重要な問題で、今そこにある危機であります。これまでJRは、好調な新幹線経営で得た利潤を地方のローカル線の赤字補填に回していましたが、コロナ禍により、新幹線の乗客が激減し、その対応が苦しくなってきたため、大きな赤

字を抱えるローカル線の運営に関して、沿線の自治体に協議を申し入れてきたのであります。名指しで指摘されたJR播但線の寺前・和田山間は、1便当たりの乗車密度、つまり平均乗車数が、2021年度で924人です。市内の各駅の1日当たりの乗降客数は、和田山946人、竹田231人、青倉82人、新井188人、生野380人となっており、高校生の通学利用の重要性が見えてまいります。公共交通であるJR播但線は、地域の交通手段として存続させねばならないので、例えば、生野地域が取り組んでいるウォーキングトレイン、つまり、生野から長谷まで歩いて行き、帰りは播但線に乗って帰ってくるという取組。そして、参加賞にICOCAカードを渡して、利用促進を図っていることをはじめ、乗車促進運動は継続しなければなりません。

御提案の駅弁販売、駅を活用したイベント開催、キャラクター電車などは効果が見込まれるものと思われまます。既に、和歌山県貴志川電鉄では、名物の猫の駅長、たま駅長が有名になり、一目たま駅長を見に行こうと乗客が増えています。また、たま駅長をデザイン、ラッピングしたキャラクター電車も大人気で、日曜日には家族連れでにぎわっています。大いに参考にすべき取組であります。駅弁は既に自販機で販売することができており、人件費が節約できます。風光明媚な播但線沿いの景色を眺めながら楽しんでもらえることができます。実現に向け、JRと交渉しなければなりません。夏には、各駅前で納涼祭りが開催され、にぎわいますが、1年を通して定期的に取り組むことも検討する必要があります。

よい提案をたくさんいただき、ありがとうございました。これらの内容が実現できるよう政策提案し、取組を強化していきたいと思えます。

以上をもちまして、米田蒼依議員への答弁とさせていただきます。御質問ありがとうございました。

○議長（岩崎 愛梨君） 以上で、米田蒼依さんの一般質問は終了しました。

次に、通告第6番、マファルダ・ビアンカさんの一般質問を許可します。

議席番号12番、マファルダ・ビアンカさん。

○議員（12番 マファルダ・ビアンカ君） それでは、私、マファルダ・ビアンカの、生野と朝来市の安全性について一般質問を始めます。

私は生野に住んでいて気になることが一つあります。それは街灯が少ないことです。私はバレーボール部に所属していて、部活動終了後に帰宅すると、19時頃になることがよくあります。特に冬が近づいてくると日が短くなるので、学校を出る頃は真っ暗で、暗い中を家に帰ります。私は、帰宅する時間は、自動車通勤する人の仕事帰りの時間帯にも当たることがあります。そのようなときは、車の通行量も増え、生野の道は狭いところが多いので、歩行者にとっても危険です。また、期末考査後などは、いつもより早く帰宅するので、薄暗いときになります。薄暗い状態は、自動車の運転者にとって歩行者が見にくく、危険だと聞いたことがあります。

生野高校では、6月頃に不審者による生野高校の女子生徒への声かけ事案もあり、先生から特に、登下校のときには複数で帰るように指導されました。これは、学校から生野駅までの間での出来事、近くには小学校、中学校もあります。警察にも連絡していただき、警察や先生方が何度も見回

りしてくださいました。以上のことは、生野町だけではなく、朝来市全体にも言えることではないでしょうか。

お店や銀行などでは、防犯のために、閉店した後、誰もいないけど電気をつけたままにしているのをよく見かけます。つまり、明るいだけで危険が回避できる可能性が高くなると言えます。

朝来市の児童生徒が安全に登下校できるよう、次のことをぜひお願いします。

一つ目は、小学校、中学校、高校の通学路に、暗くて危険なところがないか調査して、必要なところに街灯をつけて明るくする。

二つ目は、ほかにも、こども100当番の家や、こども100当番の車を増やして、道を歩いていてもよく分かるように、こども100当番の家と書いてある看板などを下げてもらい、誰でも何かがあったときには逃げ込めるように、また、こども100当番の家がどこにあるか分かる地図などを作成し、各学校等に配布する検討をしていただけるようお願いいたします。

○議長（岩崎 愛梨君） 上田幸広議員、答弁願います。

○上田 幸広君 それでは、マファルダ・ピアンカ議員の質問にお答えをいたします。

初めに、マファルダ議員が日頃、高校生活を送る中で体験され、感じられたことを率直に質問され、誰もが安全で安心して暮らせる朝来市のことを考えておられるということに敬意を表したいと思えます。

まず一点目の、危険な街灯のない通学路の調査を行い、必要な場所に街灯の設置をとの御質問でございました。日没の時間が早い冬場などは、5時ぐらいで真っ暗になってしまいます。また、議員のおっしゃるとおり、薄暮の時間も、交通事故の多い時間帯になっております。そして、不審者などによる犯罪もやはり暗がりのほうが起こりやすくなります。そういう防犯の観点からしても、今後しっかりと考えなくてはならない課題であるというふうに思います。

朝来市では、毎年、通学路安全推進協議会を開催しており、各小中学校・こども園からの危険箇所の報告を受け、警察、道路管理者などが合同点検を実施して、安全対策を行っております。その学校からの報告の中に、街灯の設置に関する御意見もありますが、道路の整備等も含め、危険度の高い箇所から順次対策を行っております。また、区内の街灯に関しては、各区で取り付けるようになっており、PTAや保護者などから、区長に要請していただきたいと思えます。また、市内全体の通学路の街灯設置調査に関しましては、今後の検討課題であると考えております。

2点目の、こども100当番の家やこども100当番の車の設置件数の拡大や看板の設置、また、設置場所の地図表示の御質問につきましては、管轄する朝来防犯協会に問い合わせましたところ、市内で137か所にこども100当番の家の設置がされており、その他の市内の企業団体でも、こども100当番の家の制度が推進されており、歩行者から目につくようにステッカーなどが玄関に貼られています。今後も、防犯意識の向上と子供の安全を守るために、こども100当番の家の制度の継続と充実を図るとのお答えをいただきました。

また、地図作成に関しましては、既に作成している学校と、作成していない学校があるなど、ばらつきがあるため、ぜひ全校で作成できるよう、今後検討していきたいというふうに思います。

いずれにいたしましても、市民の防犯意識の向上と、市民全体で子供たちを見守っていくことが大事であるというふうに申し上げまして、私の答弁といたします。ありがとうございました。

○議長（岩崎 愛梨君） 以上で、マファルダ・ビアンカさんの一般質問は終了しました。

次に、通告第7番、衣川功樹君の一般質問を許可します。

議席番号16番、衣川功樹君。

○議員（16番 衣川 功樹君） それでは、私、衣川功樹の、朝来市の文化遺産に関するこれからの取組についての一般質問を始めます。

朝来市には幾つかの日本遺産があります。私は、この中から、神子畑選鉱場と竹田城跡に関するこれからの取組について質問します。

私は、幼い頃から何度も神子畑選鉱場に訪れており、そのたびに、東洋一の選鉱場であったこの場所の歴史と、当時の規模の大きさに驚かされました。コロナ前のことですが、2017年に日本遺産に選ばれてからは、観光客の数が約5,500人から、約1万6,000人と3倍近く増えています。年々、バスツアーやライトアップ、桜まつりなど多くのイベントや芸能人の方がこの場所を撮影で使ったりと、注目度は上がっていると思います。竹田城跡もCMや映画で使われたこともあり、天空の城、日本のマチュピチュとして、2014年、ブームが起こり、当時58万人以上の観光客が訪れました。神子畑選鉱場も、竹田城跡も、後世に残し、語り継いでいきたい私たちの宝です。私たちのすばらしいこの宝の価値を、特に地元朝来市の子供たちに伝え、誇りに感じてくれることを願っています。

朝来市以外のより多くの方々にも知っていただき、訪れてほしいと考えています。しかし、残念ながら、観光客の増加には様々なメリットもありますが、その反面、デメリットも存在します。神子畑選鉱場においては、残っていた建物に無許可で立ち入る廃墟マニアが後を絶たず、また、建物の老朽化も相まって、安全のために2004年に解体されています。そのほかにも、私はシックナー等の老朽化も気になっています。竹田城跡では、例えば、シンボルであった一本松が枯れてしまいました。その付近が城下町を一望できる撮影スポットだったため、多くの観光客が幹周辺の土を踏み固めたことが原因です。

三つ質問します。

まず一つ目の質問です。朝来市の児童生徒が、神子畑選鉱場や竹田城跡を故郷の誇りとして考えられるように、朝来市としてどのような取組をされていますか。ふるさと教育の一環として、小中学校での専門家による授業やガイド付きの現地への遠足などしていただけるとうれしいです。

二つ目の質問をします。観光客の集客方法については、どのようなことを計画されていますか。例えば、ライトアップを若者を対象に、また、山城の郷でのカキや但馬牛のような牛のイベントを家族対象にしてみてもどうでしょうか。そして、それぞれの対象に合った情報提供、例えば、若者にはインスタやツイッターなどのSNS、家族にはアンテナショップや駅、旅行会社などにポスター掲示等を行い、広く知っていただくなどできると思います。また、子育て家族向けのポータルサイトへの掲載や、有名人に公式観光大使になってもらい、広めてもらうのはどうでしょうか。

最後の質問です。老朽化や観光客のマナーの悪さの防止に対しては、どのような対策をされていますか。

○議長（岩崎 愛梨君） 水田文夫議員、答弁願います。

○水田 文夫君 それでは、生野高等学校、衣川功樹さんの質問にお答えします。

朝来市内の文化遺産について、いい質問を三つしていただきました。

初めの、神子畑選鉱場や竹田城跡をふるさと教育の現場として活用する提案です。私も大賛成です。現在、竹田城跡では、専門家による親子ツアーが行われています。このような取組を神子畑選鉱場にも広げ、学校行事として取り組めるような形に取り組みたいと思います。また、市内の子供たちが遠足の行き先として行けるような取組も必要と考えております。あわせて、日本遺産である明延鉱山、神子畑選鉱場、生野鉱山を結ぶ鉱石の道を世界遺産にする取組も必要と考えています。その中でも、御提案の活動等が大変重要になりますので、ぜひ御協力をお願いします。

次は、観光客の集客についての質問です。市は、現在開催されてます、兵庫デスティネーションキャンペーンなどの大型キャンペーンに合わせた観光誘致PRのほか、フェイスブックやあさぶらなど観光情報サイトでの情報発信や、市内に3か所ある道の駅でPRを行っております。しかし、最も効果的であるのが、衣川議員が言われましたSNSの活用と考えています。竹田城跡も、13年ほど前に、検索サイトのヤフーのトップページに使われたことで有名になりました。全国からたくさんの方々が訪れるようになりました。今はスマホ、パソコンがあれば、世界に情報発信ができる時代です。ぜひ皆さんの協力をお願いしたいと思います。

次に、老朽化や観光客のマナーについてです。御心配していただいている神子畑選鉱場シックナーは、平成16年に譲り受けて以来、侵入防止柵などの整備を行いましたが、耐震性などの調査は行われていませんので、対応するよう検討、協議を進めてまいります。竹田城跡の一本松ですが、御指摘のように、全国から一気に来訪され、草が枯れ、踏まれ、砂漠のような状態になり、木が枯れたようです。中には、ハイヒールで登られた方もあったと聞いています。現在は、通路が設けられ、安全対策も採られています。しかし、松の木などが枯れたこと、また黒いシートが敷かれたことから、魅力がなくなったと話される写真愛好家もおられます。また、竹田城跡、そのすばらしい普遍的価値を損なうような取り返しのつかないダメージを避けるためにも、城跡の保全を考慮し、入場制限や長期の閉鎖期間を設けるなどのことも必要ではないかと考えています。

このように、観光需要というものと文化遺産の保全との均衡を保つということは、本当に悩ましいことで、どちらかをやればどちらかが駄目になるというようなことになりますので、その辺を注意して取り組みたいと思います。

最後、悪質マナーのことなんですけども、このマニアは、廃墟のみならず鉄道のマニアたちがよくテレビで紹介されます。本当に旅行者なののでしょうか。旅の恥はかき捨てと言いますが、旅行者とは思えません。無許可で建物に入る、勝手に入ってしまえば、不法侵入になります。当然、事故が起きて自己責任となりますが、事故が発生した場合、所有者の管理状況が問われる可能性がありますので、フェンスや柵を囲い、入らないでという意思表示をしております。

以上、時間が少し不足しましたが、そのような対策を考えておりますので、ぜひ皆さん、御協力よろしく申し上げます。以上です。

○議長（岩崎 愛梨君） 以上で、衣川功樹君の一般質問は終了しました。

次に、通告第8番、木下蒼一郎君の一般質問を許可します。

議席番号17番、木下蒼一郎君。

○議員（17番 木下 蒼一郎君） それでは、私、木下蒼一郎の、生野高校の第二次避難所としての役割と機能の改善についての一般質問を始めます。

現在、生野高校は、要配慮者施設で二次避難所に指定されている学校です。朝来市のハザードマップによると、学校敷地横に川がありますが、学校は浸水想定区域には当たらず、また、敷地の半分が土砂災害の警戒区域から外れています。そのため、万が一の場合、生野高校の鉄筋2階建ての体育館、鉄筋3階建ての管理教室棟や第一校舎が使用できます。しかし、災害は発生したとき、現状の生野高校は十分に避難所として機能しないのではないのでしょうか。

学校の昇降口には、段ボールベッドが置かれていますが、これ以外で避難所として必要な物品が備蓄されているとは聞いたことがありません。そのため、生野高校が第二次避難所に指定されると知ったとき、驚きと同時に不安を感じました。

そこで、災害が起こる前に、生野高校の二次避難所としての機能をよりよくするために、次の提案をします。それは、生野高校に備蓄食、水の配布です。大規模災害が起きた直後の3日間は、人命救助が優先されるため、この3日間は公的支援を期待できない可能性が高いと言われます。そのため、真弓地区の人数と生野高校職員・生徒、その他の人数合わせて400人掛ける3日の食料と飲料水を備蓄する必要があると考えました。避難所としての役割が果たせるよう予算を割いてもらうことは可能なのでしょうか。

○議長（岩崎 愛梨君） 関綾乃議員、答弁願います。

○関 綾乃君 初めに、木下蒼一郎議員が、本日の高校生議会に御参加いただきましたこと、また、朝来市政に大変貴重な御意見をいただきましたことに心から感謝を申し上げます。ありがとうございます。

それでは、木下議員の御質問にお答えさせていただきます。

避難とは、難を避け、災害から命を守るための行動です。指定されている避難所が、全ての災害から一律に安全な場所とは限りません。定時から、様々な避難方法を検討しておくことで、被害を最小限に抑えることも可能です。

朝来市には、指定緊急避難場所と指定避難所がございます。生野高校の近隣では、南真弓公民館、生野交流館がそれぞれ指定緊急避難場所になっております。

次に、指定避難所とは、災害により自宅へ戻れなくなった人たちが一時的に滞在する施設で、被災した人が次の住まいを確保するまでの間、生活する場所とされています。生野高校は、指定避難所施設であるため、災害規模等にもよりますが、初動時にすぐさま開設はしません。災害の規模や被災状況により開設し、計画収容人数は100名、避難施設としては、体育館を想定しています。ま

た、災害救助法で、避難所の設置期間は7日以内とされています。とはいえ、防災上の配慮を要する方々が利用する要配慮者利用施設としての役割も期待される大切な避難所施設でもあり、頑丈な構造の校舎や校舎内での階段を利用し、垂直避難ができる、非常に有益な避難所であります。

校内にある段ボールベッドについてですが、昨年度に現藤原良光生野高校校長が、避難所用品になっているベッド、また、東京オリンピックでも使用されたという段ボールベッドを、皆さんに身近に感じてもらおうと、校長先生御自身が御購入された防災グッズとして展示をいただいているということで、1セットのみであると、生野高校、そして、朝来市防災安全課、兵庫県教育委員会に確認をすることができました。

また、災害備蓄品についてですが、朝来市の場合、災害備蓄品は、市内七つの拠点に分散させて備蓄をしております。木下議員御懸念の食料品等については、生野支所倉庫内に設置されており、避難所運営に必要な備品等については、開設時に搬送できるよう、一輪車なども準備しています。また、有事の際に不足することがないように、生活に必要な物品の調達は、市内の商業施設やホームセンター、企業、その他関係機関などと災害時協定を締結しており、補完できる体制を取っています。

議員御指摘のように、ハザードマップで生野高校の敷地の半分は土砂災害警戒区域から外れております。高校に確認すると、校舎の上の階は空き教室が多く、備品等を配置するスペースは十分あるので、災害備蓄庫として協力できるとのお言葉も頂いております。土砂災害等で塞がれるかもしれない道路を一輪車等で備品を運送するよりも、校内に設置された災害備蓄品を利用するほうが、より安全に、かつ、議員はじめ在校生の皆さんのお力も借りて、避難所運営が可能になるでしょう。議員から御指摘をいただいたように、避難所としての役割が十分果たせるよう、いま一度の備品品目の見直しと、安心いただける数量の確保、支援体制、ハザードマップに照らした備蓄場所の在り方を検討してまいりたいと思います。

本日は大変貴重な御意見を頂戴し、ありがとうございました。

○議長（岩崎 愛梨君） 以上で、木下蒼一郎君の一般質問は終了しました。

ここで、議長交代のため、暫時休憩します。

再開は、午後2時30分とします。

午後2時15分休憩

午後2時30分再開

○議長（森 千耀君） 休憩前に引き続き、会議を再開します。

議長に就任しました、和田山高等学校の森千耀です。不慣れではございますが、皆様方の御協力をいただき、円滑な議事運営に努めてまいりますので、よろしく申し上げます。

次に、通告第9番、大橋佳生君の一般質問を許可します。

議席番号1番、大橋佳生君。

○議員（1番 大橋 佳生君） それでは、私、大橋佳生の、朝来市における子育て応援パスポート

の事業拡大について一般質問を行います。

最近の若者の中には、子供を持ちたがらない人がいるという話を聞くことがあります。その理由として、子育てや教育にお金がかかり過ぎるからということを上げる人が全体の60%を占めているという報告が、内閣府からされています。一方で、兵庫県では、店舗等の協賛により、子育て世帯を対象に、料金割引や各種サービスなどを行う子育て応援パスポート事業というものがあり、ひょうご子育て応援の店を展開していると聞きました。調べてみると、実際に朝来市内にもたくさんの協賛店があるようです。ところが、この事業そのものを知らない方が多数いるようです。このパスポートを使うことで、お店での割引や無料のサービスの提供を受けられるというメリットがあるにもかかわらずです。上手に使うことができれば、先述の子育てや教育にお金がかかり過ぎるからという不安も改善されるのではないのでしょうか。

そこで質問です。朝来市では、出生届提出時などに、このような事業があることをお知らせする仕組みはあるのでしょうか。もしないようであれば、この子育て応援パスポート事業のことをお伝えする場面をつくっていただきたいです。

○議長（森 千耀君） 藤本邦彦議員、答弁願います。

○藤本 邦彦君 それでは、大橋佳生議員の一般質問にお答えしたいと思います。

朝来市における子育て応援パスポート、これの事業拡大についてという御質問であります。ただいま大橋佳生議員の御質問にありましたように、内閣府によります調査によりますと、若い世代が、理想の子供の数を持たない理由として、子育てや教育にお金がかかり過ぎるからということを上げられておられる方が、先ほどの質問にもありましたけども、圧倒的に多く、6割の方がそのように考えているということでした。さらに、これ年代別で見ますと、25歳から29歳の最も若い年代層では、80%に上るといふようなことで、やっぱり若い方ほど、この経済的な原因で子供をつくることをちゅうちょするといふような状況があるようです。

少子化の原因は、子育てや教育にお金がかかり、子育て世帯の経済的な負担が大きいためであり、2人目、3人目の子供は欲しいけれど、将来の生活に不安を感じるために諦めざるを得ない、そういった若い世代の声が多いといふふう分析されております。

そのような中で、国のほうも様々な子育て支援策をただいま打ち出してございまして、また、朝来市におきましても、本日の一般質問でもたくさんそういった質問ございましたけども、誰もが安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくり、そして、子育て世代の経済的負担の軽減、これを目指す施策を重点的に進めております。今日も明らかになったように、なかなかそこも十分ではないといふような御意見もございまして、私もそう思います。そういう中でも、朝来市としましては、できる限りここを重点的に進めていこうという、そういった形で取り組んでおります。こうした少子化対策を進めていくために、朝来市では、本年度から関係課に少子化対策担当職員を配置しまして、プロジェクトチームをつくりまして、それにより、この少子化対策に向けた取組を推進しておるといふこととさせていただきます。

さて、大橋佳生議員御提案の子育て応援パスポート事業についてですが、これは子育て世帯の皆

さんに有効活用していただくために、もっとしっかり周知してはどうか。そういった御質問でございます。大変貴重な情報と御提案をいただいたというふうに思っております。

兵庫県が行っておりますこの事業では、ひょうご子育て応援の店事業、そういった名称で兵庫県では行っております。子育て世帯を対象に、協賛事業者が料金の割引や各種サービスなどを行うもので、会員登録をしますと、協賛店舗で各種サービスが受けられる、そういったパスポートが発行される、そういった事業になります。お恥ずかしいんですけども、私自身こういった事業があることを承知しておりませんでした。いろいろ調べましたところ、やはり、議員が御指摘いただいたとおり、子育て世帯の皆さんにもほとんど知られていないというふうに感じております。そして残念ながら、朝来市におきましても、この事業を子育て世帯の皆さんにお伝えする、そういった取組は現在全く行っておりません。そういうことで、このたびのこの御提案をいただきまして、このような有益な情報ですので、子育て世帯の皆さんにできる限り伝わりますように取り組んでまいりたいと考えております。

御提案のありました、出生届提出時に、こういったパンフレットを配布しております、皆さんに。この中に、早速、これ2022年版、2023年版なんですけども、最新版のほうには、こういった情報を刷り込んでいってもいいんじゃないか、そういった今、検討を始めております。そのほか、ホームページやSNS、LINEなんかも活用しまして、子育て世帯の皆さんに情報提供できるように取り組んでまいります。また、現在、朝来市内の協賛店舗等は38事業所ございます。さらに、協賛店舗を増やして、サービスが充実したものになるよう、市内事業者の皆様に働きかけるということも必要かというふうに考えております。このたびは貴重な情報と御提案ありがとうございました。

以上で終わります。

○議長（森 千耀君） 以上で、大橋佳生君の一般質問は終了しました。

次に、通告第10番、田中佑奈さんの一般質問を許可します。

議席番号2番、田中佑奈さん。

○議員（2番 田中 佑奈君） それでは、私、田中佑奈の、朝来市に観光客を呼び込むためのイベントについての一般質問を始めます。

近年、朝来市の人口は減少傾向にあります。私は、朝来市への観光をきっかけに、まちの魅力を知ってもらい、その結果、移住に結びつくことにより、人口増加へつながると考えています。

そこで、朝来市に観光客を呼び込むために、竹田城跡で行う天体観測イベントを考えました。なぜこのようなイベントを考えたとかというと、竹田城跡の立地が天体観測に向いているからです。竹田城跡で行うメリットが三つあります。

一つ目は、山城としての見晴らしのよさがあり、星が見やすいことです。

二つ目は、設営する必要があるものが少ないため、コストがかからないということです。

三つ目は、天体観測は夜にするものなので、周辺の宿泊施設への宿泊客が増えることが期待できることです。

これらのことから、竹田城跡で行う天体観測イベントを行うことを提案します。

○議長（森 千耀君） 松井道信議員、答弁願います。

○松井 道信君 それでは、田中佑奈議員の御質問にお答えしたいと思います。

田中議員が御指摘のように、朝来市の人口は継続して減少傾向にあり、平成17年の合併当時は3万6,000人余りでございましたけども、今では2万8,000人強となっております、2割以上も減少しているというだけでなしに、合併当時に比べて、少子化、高齢化も進み、人口問題は本市最大の課題となっております。そうした中で、本市に移住定住といった人を呼び込む仕掛けづくりは非常に重要な施策であり、本市としても継続的に取り組んでいるところではございますが、近隣のみならず、他の多くの自治体も同条件にあり、なかなか思うように進んでいない現状もございます。

ただいま御指摘の竹田城跡はもとより、銀の馬車道・鉾石の道など、朝来市を代表する観光資源はまだまだ有効活用できると考えておりますし、本市活性化のためにも有効活用しなければならぬものというふうに考えております。しかしながら、御提案の竹田城跡での天体観測イベントを実現するには多くの課題がございます。

まず、竹田城跡については、現状では山城の郷より先の交通手段は徒歩のみとなっておりますし、夜間の入場は認めておりません。イベントの開催方法にもよりますが、天体観測は日没後のイベントとなると同時に、明かりがあると開催自体が困難となります。そのため、外灯もない暗い山道を城跡まで安全に上がってきていただくこと。たとえ例外措置で、一時的に車で上まで上がれることを許可したとしても、その先の会場となる城跡内には起伏や階段がある上、石垣からの落下も危惧され、夜間の暗闇での管理は非常に困難となってまいります。こうした問題を根本的に解決できなければ、開催は難しいのではないかというふうに考えます。

本市では、養父市の天文館バルーンようかや、綾部市の天文館パオのような天文館施設はございませんが、場所を変えれば、さのう高原や夜久野高原といった天体観測の好適地はございます。特に、夜久野高原は地平線ではありませんが、それに近い形で、日の出、日の入りの両方が見える数少ない場所でもあり、一部のマニアの間では星がきれいな場所として知られております。松本零士の銀河鉄道999の原点と言われる書、大宇宙の旅、これはアインシュタインの弟子であった京都産業大学創始者、荒木俊馬先生の宇宙物理学の名著でございますけども、戦時中、夜久野に疎開されていた際に、夜久野高原のきれいな星空を見て執筆されたものでございます。

繰り返しになりますが、田中佑奈議員御指摘のように、観光を本市の活性化につなげるという視点は非常に重要なことだと考えます。本市が有する様々な観光資源を有効活用し、これからも様々な場所で本市の魅力を発信し続けていかなければならないと思っておりますので、何とぞ御理解いただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（森 千耀君） 以上で、田中佑奈さんの一般質問は終了しました。

次に、通告第11番、山内琉以君の一般質問を許可します。

議席番号3番、山内琉以君。

○議員（3番 山内 琉以君） それでは、私、山内琉以の、スキーシーズンの高速道路の渋滞対策

についての一般質問をさせていただきます。

私は、冬の時期にスキー・スノボ客が、北近畿豊岡自動車道で渋滞している光景をよく目にします。渋滞していて大変そうですし、渋滞する時間帯を避けて帰ればよいのではないかと考えています。そこで私は、帰りの渋滞客を対象に、下道へ迂回してもらい、朝来市の温泉施設や食事を楽しんでもらえるアイデアを考えました。

それは、高速道路の入り口に電光掲示板で渋滞情報をお知らせし、「路線変更、温泉へ行こう！」という看板を設置することです。また、スキー場のリフトの背もたれに、朝来市内の温泉施設や食事どころの広告を設置することで、リフトに乗って移動している間に帰りの予定を立てることができると考えています。

朝来市として、スキーシーズンの高速道路の渋滞対策として、どのように考えておられるのか教えていただけないでしょうか。

○議長（森 千耀君） 森下恒夫議員、答弁願います。

○森下 恒夫君 それでは、山内議員の質問にお答えします。

八鹿氷ノ山インターチェンジが供用開始されましたのは、2012年11月でありました。間もなく11年になろうとしています。当時、危惧されていたことは、自動車道が北へ延伸することにより、朝来市が通過のまちになってしまうのではないかということでした。

今回の山内議員の質問は、冬のスキーシーズンにおける和田山インター付近での帰りの際の交通渋滞を問題にされ、市内の温泉や、飲食店に誘導できないかという御提言であります。交通渋滞を見過ごさず、市内の経済に思いをはせ、具体的な対策を御提示いただきましたことに対し、敬意を表します。

現在、道路は、但馬空港まで供用されており、豊岡市外への乗り入れも間もなくでございます。朝来市が取り残されることのないよう、経済政策を見直すことの重要性を強く感じた次第であります。本市総合計画で、幸せが循環するまちを目指す本市としましては、何より経済の好循環が最優先であると考えております。

電光掲示板、看板等の設置につきましては、自動車道は、国土交通省の管轄であり、様々な規制がございます。また、広告をするにしましても、事業者、あるいは場合によっては商工会等にそれぞれのお考えがあると思います。いずれにしましても、市独自で進めることはできないという、難しいということは御理解願いたいと思います。

現在、経済振興課では、但馬への入込客向けに、朝来市に立ち寄ってもらうためのアピールをデジタルで発信すべく検討中であります。朝来市には、竹田城のほかにも歴史的文化遺産、自然、食、温泉とたくさんの魅力にあふれています。それらをうまくアピールし、一年中、多くの観光客に立ち寄ってもらい、活気あふれる朝来市にしたいものです。今回の問題提起を契機に、関係各課で問題を共有し、検討いたしたいと思います。

議員におかれましては、今後とも、御意見、御提案をお寄せいただきますことをお願い申し上げ、答弁とします。ありがとうございました。

○議長（森 千耀君） 以上で、山内琉以君の一般質問は終了しました。

次に、通告第12番、藤原心優さんの一般質問を許可します。

議席番号7番、藤原心優さん。

○議員（7番 藤原 心優君） それでは、私、藤原心優の、ポイ捨てを減らすための取組についての一般質問を始めます。

私は、朝来市のごみのポイ捨て問題について考えています。この問題について考えようと思った経緯は、道端や溝にペットボトルや空き缶などのごみが捨てられていることや、私の最寄り駅のJR新井駅にたくさんのごみが置かれていることが気になったからです。

そこで、朝来市議会に質問です。これから、あさご夏祭りなどのイベントが開催されるに当たって、道端などへのポイ捨てが増えると予想されますが、何か対策などは考えておられますか。ごみのポイ捨てを注意する看板やごみの持ち帰りを促すポスターを設置される予定はありますか。

私は、ポイ捨てを減らすためには、ごみ箱を増やすことも大切だと思いますが、ごみ箱にしっかり捨ててもらえるように、今あるごみ箱を工夫することも必要だと思います。例えば、ごみ箱に思わず捨てたくなるようなバスケットゴールをつけることや、方言で書かれた看板を設置することや、顔や目などの画像を使用して、誰かに見られていると錯覚させて驚かせることができるようなユニークな看板を設置することが考えられます。いかがでしょうか、御検討ください。

○議長（森 千耀君） 尾崎里美議員、答弁願います。

○尾崎 里美君 それでは、藤原心優議員の質問にお答えします。市当局でしかお答えできない部分もありますので、私の答えられる範囲でお答えいたします。

今回、ごみのポイ捨てを減らすための取組についての質問ですが、ごみ問題は、世界的にも深刻しております。埋立ての問題や、地球環境悪化などがあります。

ポイ捨てについて、日本財団と日本コカ・コーラ株式会社が、陸域から河川への廃棄物流出メカニズムの共同調査をされています。有料ごみ袋制度の場合、買わないとごみが捨てられず、家にごみがたまってしまいます。その結果、家の近くのごみ箱に置いてきたり、ポイ捨てをしてしまう。また、時間が不規則な方は、どうしてもごみ出しの時間に出すことができず、ごみがたまってしまいますので、ごみ置場の近くに置いていく。そうすると、カラスにごみをつつかれてしまい、ごみがあふれてしまうことがあると発表されています。こういったことから、社会的な問題や、生活スタイルなども要因で発生していることが、明らかになっています。

ポイ捨てと一言では片づけられない社会問題として取り組んでいかなければならない問題です。決して、ポイ捨てはいいことではありません。そのことを踏まえ、夏祭りやイベント開催に当たっては、多くの方が来られます。多くの方が来られるとごみも増えます。ごみは、個々として持ち帰ってもらうのが基本ですが、特定の場所のごみ箱の設置や、会場内の放送も行っています。また、花火大会では、次の日に、山東の方は、奉賛会の方と自治協の方、朝来では、奉賛会の方と中学生のボランティアの方とで、ごみ拾いをされています。

ごみのポイ捨てを減らすため、ごみ箱を増やす提案をいただきましたが、ごみ箱を増やすのも一

つの方法ですが、一方、近年、ごみ箱を撤去する動きもあります。駅のホームやコンビニ、公園などです。ごみ箱を設置することで、ごみをごみと呼ぶとも言われています。先ほど、社会問題として取り組んでいかなければならないと言いましたが、やはり、まずは自分で出したごみは自分が責任を持って処理することが一番大切なことです。

御提案いただいた中に、方言で書かれた看板の設置について触れられていましたが、若者らしいすばらしい提案だと思いますので、ポイ捨てはあかんなどといった看板の設置を進めていきたいと思っています。市議会としましても、行政にしっかりと伝えていきたいと思っております。

これで私の答弁を終わります。

○議長（森 千耀君） 以上で、藤原心優さんの一般質問は終了しました。

次に、通告第13番、夜久柊真君の一般質問を許可します。

議席番号8番、夜久柊真君。

○議員（8番 夜久 柊真君） それでは、私、夜久柊真の、朝来市の過疎化を防ぐ対策についての一般質問を始めます。

私は、学校の授業で、朝来市の過疎化を防ぐをテーマに探求活動を行っています。その中で、朝来市は、近畿エリアの住みたい田舎ランキングで3位に選ばれているということが分かりました。その理由は、都会にも田舎にもアクセスできる環境で、子育て面のサポートや住宅の補助金制度もあり、令和2年度までの6年間、毎年100名以上の移住者がいて、魅力的なまちだからです。

しかし、自然が豊かでお店が少ないという不便さがあるという意見もありました。また、61.2%の人が、家を選ぶときに周辺施設を重視するということが分かりました。特に、買物ができる場所が家の近くにあってほしいという人が多いそうです。

そこで私は、朝来市の過疎化を防ぐためには、大型ショッピングモールの誘致、または、今あるショッピングモールの施設を充実することを図ることが必要だと考えます。豊岡市のように、商業施設に子供広場をつくり、子供が遊んでいる間に買物ができたり、雨の日でも気軽に遊べる場所があったりすると、子育て世代も安心して過ごすことができると思います。

朝来市として、今後の過疎化を防ぐ対策としてどのようにお考えでしょうか、お聞かせください。

○議長（森 千耀君） 日下茂議員、答弁願います。

○日下 茂君 それでは、夜久柊真議員の質問にお答えをさせていただきます。

朝来市を、どうしたら過疎の進行を食い止めることができるかのお尋ねです。残念ながら、朝来市は過疎が進んでいます。全国各地でも過疎が進む状況ではありますが、仕方ないでは済まされる問題ではありません。少子化対策は、行政の政治力を問われる問題です。住民の未来ニーズをしっかりと把握し、先行投資をしなければ、過疎化の症状を止めることはできません。住みたい田舎ベスト自治体で、人口増加をしている市町村はほとんどありません。また、国民からの信頼度も疑問です。

ある調査会社は、移住定住の促進に積極的な市町村を対象に、移住支援策、医療、子育て、自然環境、就労支援、移住者数などを含む279項目のアンケートを実施し、671自治体からの回答を数値

化し、ランキングを決定したものです。ちなみに、2023年度現在の全国の市町村は1,724、都市と田舎の線引きもありません。但馬でも朝来市、養父市、豊岡市は毎年、高ランクに位置されていますが、移住希望者、Uターン希望者のニーズをしっかりと把握しているかは、希望者への確認がないために、判断に不安や疑問を感じるかもしれません。他社の調査によると、住みたいまち、住み続けたいまちのベスト20には、但馬の自治体からは選出されていません。

お尋ねの過疎化を阻止するには、生産年齢人口の増加が必要です。しかし、我が国の生産年齢人口は、1990年をピークに毎年減少が進んでいます。自然増加は見込めず、生産年齢人口を増加させるには、少子化の現在においては、移住、Uターンを促進するのが最も効果的と考えています。そのためには、まず、働き場所の確保が必要です。職種の選択ができることも大切です。さらに、一定の場所に移住するには、生活必需品はもちろんのこと、買物に出かけたい、食事に出かけたい、散歩に出かけたい、子供と一緒に過ごしたいといった思いがかなえられるような店舗や施設があることも条件です。都市並みの文化芸術の鑑賞、参加ができることも必要と考えます。そして、子育て世帯には、教育の充実が絶対条件と考えます。住む人が、充実した仕事で有意義な休日を過ごすことができれば、交流人口、消費人口は増加し、人口減少を食い止めることができると考えます。そのためにも、行政は、若者、子育て世代の声をしっかりと聞くことが必要です。高校生の皆さんも、どんなまちなら住みたいか、また、どんなまちならUターンしたいか、どんなまちなら家庭を持ちたいか、定住するには何が足りないかをしっかりと考えていただき、情報提供をお願いしたいと思います。本日、質問いただきました項目については、今後、最大限生かしてまいります。

以上、答弁いたします。お疲れさまでした。

○議長（森 千耀君） 以上で、夜久柊真君の一般質問は終了しました。

次に、通告第14番、安田陽菜さんの一般質問を許可します。

議席番号9番、安田陽菜さん。

○議員（9番 安田 陽菜君） それでは、私、安田陽菜の、竹田城跡を拠点とした冬のイベントについての一般質問を行います。

私は、朝来市の冬のイベントを提案したいと思います。なぜなら、朝来市には冬のイベントの数が少ないと思うからです。私が調べた限り、生野イルミネーションロードを含め4件しかありませんでした。一方で、養父市には、冬のイベントにスキー場を活用したイベントがあり、そのほかにも約20種類以上のイベントがありました。

そこで、私は、「竹田城跡でのカウントダウン&初日の出イベント」を提案します。現状では、周辺の市を調べてみても、このようなイベントは開催されていません。このイベントを実施すると、竹田城跡のイメージを向上させ、もっと好きになってもらえるという効果が得られると思います。また、初日の出を見るというイベントにすることで、宿泊客を呼び込むことができます。イベントでは、朝来市内の事業所限定で屋台を出店してもらい、夜は、竹田城跡に向かって雲海に見立てたライトアップを行い、雲海が見られなかった人たちでも気軽に楽しめるようにすると盛り上がると思います。

朝来市として、冬のイベントについて、市外から人を呼び込むための仕掛けとしてどのようなこととお考えでしょうか。

○議長（森 千耀君） 吉田俊平議員、答弁願います。

○吉田 俊平君 それでは、安田陽菜議員の一般質問に御回答させていただきたいと思います。

安田陽菜議員が、市内の冬のイベントを御提案いただき、ありがとうございます。議員からは、真面目に御提案と御指摘をいただいておりますので、私も真剣に回答させていただきたいと思いません。

議員の御質問は、大きく分けて二つあると理解しました。一つは、竹田城跡に係る冬のイベント開催の御提案であり、もう一つは、市内の冬の観光客の誘客についての御指摘であります。

まず、竹田城跡の元旦イベントであります。現在も、朝来市は、元旦の1月1日から1月3日を特別観覧日として、観覧時間は午前5時から午後2時といたしまして、飲食やライトアップをしておりませんが、元旦イベントは既に実施をいたしております。令和5年の実績は、元旦が948名、2日が245名、3日が341名で、合計1,534名の御登城がありました。

また、市内の冬の観光客の誘客であります。議員が御指摘のとおり、冬の市内観光誘客について、かなり問題がございました。議員に御質問いただきました後に、担当課である観光交流課に、冬のイベントについて一般質問の回答を作成するため確認いたしましたところ、冬は観光客が少ないからイベントが少なくなっていますと説明を受けました。しかしながら、観光客が少ないからイベントを減らすとなれば、観光客は増えるどころか、どんどんと減る一方であることは、これは明々白々の事実であります。また、観光をビジネスとしている観光業や飲食業、宿泊業やロードサイドビジネスが必死になって経営されている企業家に対して、冬はビジネスを諦めると言っているにも等しいことを、私たちは理解をしなければなりません。

私が、観光交流課からもらいましたデータで資料を作成しましたところ、12月から2月までの冬のイベント回数は5回でありました。

ここで少し資料の数字を述べさせていただきたいと思います。議員には、お手元に資料をお渡ししておりますので、御覧いただきたいと思います。

4月から翌年3月までの1年間の実績と、12月から翌年3月の4か月の実績を比較し、その変動率を見ますと、道の駅あさご村おこしセンターは100.03%、道の駅フレッシュあさごは107.79%、道の駅但馬まほろばは107.49%、多々良木フォレストリゾートC o c o d eは61.26%、竹田城跡、これは正式な名称が竹田城跡というふうに6月から変わっているというふうに理解しておりますので、竹田城跡は53.81%、旧木村酒造場E Nは79.46%、立雲峡は40.62%でありましたことから、観光客をうまく取り込めていない施設と観光客をうまく取り込めている施設があることが分かりました。議員の御指摘のとおり、冬のイベント回数が極端に少ないという現状となっております。

そこで、今後は市内の冬の誘客数を、これまでの消極的な観光行政から転換し、冬期間の観光誘客の在り方を見つめ直すべく、現在、担当課長と調整をさせていただきたいと思っております。具体的な年間イベントカレンダーを作成し、季節ごと、地域ごと、施設ごと、回数等を、まずは把握

すべきところから把握することを始めまして、それぞれに大きな偏在が起きないように注意をしながら、市内の観光施設や観光イベント、文化財や伝統文化などの観光資源を改めて悉皆的に調査を行うべきではないかと、今後において提案させていただきたいと思います。

今回の質問は、本質的な課題や問題を含んでおるといふふうに思っておりまして、私も今回、大変勉強になりました。安田陽菜議員が、真摯な御提案や御指摘をいただきましたこと、誠にありがとうございました。

最後に、安田陽菜議員のこれからの御成長を期待いたしますとともに、将来において、安田議員が私たちの仲間として、これからの朝来市を支えていただきますことを心から念願いたしまして、私の答弁といたします。

○議長（森 千耀君） 以上で、安田陽菜さんの一般質問は終了しました。

次に、通告第15番、白箸理一君の一般質問を許可します。

議席番号14番、白箸理一君。

○議員（14番 白箸 理一君） それでは、私、白箸理一の、播但線の利用促進についての一般質問を始めます。

私が、生活の中で日頃から感じる事として、播但線を中心とした交通機関の利用者数の減少が問題だと思っています。そして、その問題は、朝来市の人口減少やコロナ禍による外出頻度の低下、さらには、観光客の減少が大きな原因だと考えています。もし、この問題が発展してしまい、播但線が廃線になってしまうと、私を含めた通学や通勤のために利用している多くの人の生活に支障を来してしまうと考えます。

そこで、播但線の利用促進のためには、従来の通勤・通学といった利用以外の機会が必要だと考えています。例えば、イベントによる利用促進などです。

以上を踏まえて質問です。過去に行われた但馬地域鉄道利便性向上委員会が主催した、但馬地域内での山陰本線播但線のスタンプラリーを通して得られた成果や反省点や改善点について、どのようにお考えでしょうか。

○議長（森 千耀君） 藤原正信議員、答弁願います。

○藤原 正信君 白箸理一議員の御質問にお答えをいたします。

御質問のスタンプラリーは、但馬地域鉄道利便性向上対策協議会が、令和元年8月から令和2年1月にかけて行った事業のことと思います。内容の詳細は、割愛させていただきますけれども、鉄道の利便性や魅力を広く周知して、鉄道利用意識の醸成を図るためのイベントでございました。事業主体の但馬地域鉄道利便性向上対策協議会は、但馬地域の区長会や商工会などの関係団体及び交通事業者並びに兵庫県と但馬地域の行政機関で構成する組織で、但馬地域内の鉄道の活性化に向けて、利便性の向上や利用促進の啓発などの取組を行っております。兵庫県但馬県民局地域政策課が事務局を担っております。

当該事業の成果などにつきまして、事務局に問い合わせ、確認をいたしましたところ、応募総数は225人、紙ベースの古典的スタンプラリーであったために、高齢者層が参加しやすく、幅広い年

年齢層の参加を得ることができて、各年代層にアピールできたというふうにされております。一方、事業の遅れのために、開始が夏休みに入ってからになってしまったことや、実施期間が半年にわたる長期になったことで、間延び感ができてしまったというようなことが反省点として上げられております。ゴールデンウィークと夏休みの2回に分けて短期間に絞って実施すれば、参加者の属性がより明確になるなど、利用促進策検討の重要なデータをもっと得ることができたのではないかとこのようにされておりました。

この事業は、朝来市が主体として実施したものではありませんで、また、独自に乗降客数を把握するということが困難なこともありまして、本市としての事業評価ないし政策評価は行ってはおりません。しかしながら、事業実施エリア内の自治体といたしましては、一つには、広報紙などの紙媒体だけでなく、ウェブサイトやSNSなどのデジタル媒体も活用して、コラボレーションやクロスプロモーションなどの連携も行って、積極的に宣伝・広告をする。

また二つ目として、駅周辺や沿線の見どころや、お勧めスポットやグルメや特産品やイベントなどの情報を提供して、参加者の満足度や楽しさを高めるとともに、本市の地域の魅力を発信をするというような工夫を主体的に行うことで、事業に一層の貢献ができて、本市への効果も上がったのではないかとこのように考えております。

議員も言及されておりますが、地域の公共交通機関の利用者減少は地域交通の衰退を招き、交通弱者の社会参加の機会を狭め、地域経済や観光振興にも支障を来すなど、地域に深刻な影響を及ぼします。私たちは、自分たちの移動手段として地域公共交通を積極的に利用することが求められますが、鉄道事業は高い固定費がかかることから、議員御指摘のように、生活利用の促進だけでは地域の鉄道を維持するためには不十分という、そういう御意見もございます。その見地からも、鉄道の駅を巡るスタンプラリーは、鉄道利用促進の有効な手段と評価をしておりますので、今後も機会を捉えて積極的に活用していきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（森 千耀君） 以上で、白簪理一君の一般質問は終了しました。

次に、通告第16番、田村奈緒さんの一般質問を許可します。

議席番号15番、田村奈緒さん。

○議員（15番 田村 奈緒君） それでは、私、田村奈緒の、バスをもっと使いたくなる工夫についての一般質問を始めます。

朝来市では、鉄道やバスといった公共交通の業績に赤字が続いていると聞きます。そのような状況を改善するためには、利用促進が必須だと考えます。そこで、私から、アコバスを含む市内運行のバスの運営について提案をさせていただきます。それは、バスをもっと使いたくなる工夫として、大きくは二つになります。

まず一つ目に、高齢者等優待乗車カードあこかについてです。あこかに関して、市のウェブページを見ると、説明は書いてあるんですが、肝心の入手方法については書かれていません。よって、より詳しい説明が必要だと思います。

二つ目に、バスの利用が自家用車の利用よりも魅力的であるようにすることです。例えば、バスの利用によって、健康増進につながる仕組みづくりです。具体的には、朝来市には現在、朝来市健康づくりポイント事業があると思いますが、このポイントの活用を拡大し、バス料金の割引に適用できるようにします。というのも、バスを利用すること自体が運動量増加につながり、健康増進につながるからです。つまり、ふだんから健康を意識する市民の方がバスを利用しやすくなり、実際に利用することで、より健康になるという循環が起こるのではないのでしょうか。健康的な生活を継続するためにバスを利用する人が増えれば、朝来市の健康意識もより向上するはずです。バスの利用が増えれば、もしかしたら高齢者のマイカー利用が抑えられ、その結果、交通事故の件数も減少するかもしれません。

バスの利用促進と健康増進の関係について、どのようにお考えでしょうか。

○議長（森 千耀君） 加藤貴之議員、答弁願います。

○加藤 貴之君 それでは、議席番号16番、田村奈緒議員の質問にお答えします。

バスの利用者が少ない、今までバスに乗っていない人にもバスに乗ってほしい。そこで、健康という切り口で、バスを売り込みたい、そんな御提案だと思います。健康を公共交通活性化の切り口にするのは、非常によい御提案だと思います。

地域公共交通の活性化及び再生に関する法律という法律があります。この法律の基本方針が令和2年に出されています。それによると、地域公共交通と福祉は密接な関係にあるため、地域公共団体における部局を横断した連携の一層の充実を図り、両分野の施策を推進していくことも重要であるとのことです。なので、あとはこのバスに乗って健康づくりというアイデアをどのように商品化して、市民に売り込むかだと思います。

そこで、田村議員から、2点御提案いただいています。

まず二つ目の御提案からお答えしますね。朝来市健康づくりポイント事業の景品に、バスの割引券をつけてはどうか、そのような御提案だというふうに思います。それはそれで市民のために非常によいことだと思いますが、私の考えとしては、もう一押し必要なんじゃないかなというふうに思います。というのも、バスに乗ってじゃあどこに行くんだとなりますよね。令和2年の朝来市地域公共交通網形成計画によると、アコバスの認知度を問うアンケートで、バス会社名は聞いたことがある、もしくは全く知らないという回答が、65歳から74歳でも83.6%を占めています。つまり、高齢者の間でも、いつどこを走っているかすら知らない人がほとんどだということです。そこで、私自身の提案になりますが、議員の御提案に合わせて、バスに乗って健康づくりをするようなモデルコースをつくってはどうかというふうに思います。例えば、温水プール、フィットネスジム、公園や、朝来市の推奨する散歩コースなどを行き先にして、バスの時刻表をつくってあげると、お客さんは動きやすいのではないかなというふうに思います。それで、議員御提案の健康づくりポイントがたまり、バスの割引券の商品に交換できれば、よい循環になるのかなというふうに思います。ちなみに、健康づくりポイントの令和4年度の交換実績ですが、965人から1,751件の交換がありました。その内訳としては、温泉券が24、ごみ袋の大きが589、ごみ袋の小が595、学校等への寄附が89、

自治協への寄附が454件ということでした。

もう一つの御提案であります、市のホームページにあこかの販売方法を記載すべきという点。これは記載すべきことかなというふうに思います。といいますのも、やはり、今までは告知放送、もしくはケーブルテレビを利用して、販売方法を告知していました。これからの時代、情報はホームページにも載せるべきかなというふうに思います。総務省が行っている通信利用動向調査の令和4年度版によれば、全国の70歳代の60.0%が、インターネットを毎日少なくとも1回は利用すると回答しています。また、インターネットを情報検索に使っているという回答も、70歳代で61.0%です。なので、私たちが今ターゲットにしていますような、健康意識の高い方というのは、割とふだんからも、高齢者であっても比較的デジタルを活用している世代かなというふうに思います。なおさら、この事業を進めるのであれば、ホームページでも告知をすべきかなというふうに考えます。

なお、あこかの販売実績ですが、令和4年度実績で、一斉販売で495枚、随時購入で481枚、合計976枚ということでした。

これからも一緒に考えていければなというふうに思います。どうぞよろしくお願いします。ありがとうございます。

○議長（森 千耀君） 以上で、田村奈緒さんの一般質問は終了しました。

以上で、本高校生議会の会議に付された事件は全て終了しました。

これをもって閉会したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森 千耀君） 異議なしと認めます。

会議を閉じます。

朝来市議会高校生議会の閉会します。

○議会事務局長（宮元 広司君） 皆様、大変お疲れさまでした。

会議を閉じるに当たり、本日、御来賓として御臨席を賜っております朝来市教育長、小倉畑祐貴様から御講評をいただきます。

小倉畑教育長、お願いいたします。

○教育長（小倉畑 祐貴君） 高校生議員の皆さん、大変御苦労さまでした。

高校生の皆さんが朝来市に目を向けて、様々な質問を考えて、今日のこの高校生議会に参加されたことに感謝をいたしたいと思います。

朝来市がさらによくなるためにはどうしたらいいとか、将来、このまちに安心して住むためにはどうしたらいいかという視点で、自分で調べたり、学校の先生や友達、また、家族の方にもお世話になった人もあるのかもしれないですが、様々な準備をして、今日を迎えられたのだと思っています。

2人の議長をはじめ質問者の方、皆さん、大変落ち着いてできておりましたし、また、自分の席で聞く姿も、後ろ姿ではありましたが、大変凛としていて、とても立派でした。お疲れさまでした。

皆さんの質問には、安全で安心なまち、それが持続するまちにするためにはどうしたらよいか、

まちづくりに関する様々な角度から質問をいただきましたし、アイデアもいただきました。実際に、朝来市役所においても、市民の皆さんが安心して暮らせるまちを目指して、市民の皆さんの声を生かしつつ、予算や人材、地域資源等を活用して様々な取組を行っているところです。皆さんはこの高校生議会に向けて、朝来市のまちづくりにこれまで以上に関心を持っていただいたと思いますので、今後もまちづくりに興味や関心を持っていただきたいと思います。また、そんな話を、家族や友達、先輩、そして後輩ともしてほしいと思っています。

朝来市教育委員会では、ふるさと朝来の未来を担う人づくりを目指して、朝来市に愛着と誇りを持つ人づくりに向けて教育を行っておりますし、朝来市においては、人と人がつながり、幸せが循環するまち、サブテーマとして、対話で拓く朝来市の未来を目指してまちづくりをしています。

皆さんの今日の姿を見て、皆さんはこれからますますこんなまちにしたい、こんなまちになればいいという気持ちを持つと同時に、自分はどんなことに力が発揮できるかということなどを常に考えながら、これからの高校生活を、そして、その先にあるステップを進めていってほしいと思います。また、今後どこで暮らしても、朝来市のことを忘れずに、また、将来、朝来市民として暮らしてもraitたいとも願っているところです。

最後に私のことで申し訳ないですが、20年ほど前に、ある先輩が、自分は特別な自慢できることはないけれども、選挙は一度も欠かさずに行っているという話を聞いたことがあります。私もこの話を聞いてから、より意識してそのようにするようになっています。皆さんも、選挙には必ず行くことはもちろんですが、政治やまちづくりに興味や関心を持ち、暮らしやまちをよくする意欲のある社会人に成長されることを期待して講評といたします。大変今日はお疲れさまでした。ありがとうございました。

○**議会事務局長（宮元 広司君）** 小倉畑教育長、ありがとうございました。

続きまして、嵯峨山副議長から講評をいただきます。

副議長、お願いします。

○**副議長（嵯峨山 博君）** 高校生議員の皆様、大変お疲れさまでした。朝来市議会副議長の嵯峨山でございます。

今回で高校生議会は3回目となりますが、議長、あるいは議員としての一般質問を体験していただきました。いかがでしたでしょうか。緊張されましたでしょうか。いい経験になりましたでしょうか。よかったです。この高校生議会をさせていただいて、昨年も述べましたけれども、皆さんは日頃から地域の課題、あるいは朝来市の将来のまちづくり、そういったことについての御提案いただきましたけれども、様々な問題意識を持たれた中で、そして、いろいろと考えられながら学校生活を送られてるんだなということに大変関心をしているところでもあります。

先日、大学の教授のお話を聞くことがございまして、大学の面談等で、以前は大学を卒業して、いい企業に就職するといった学生の声が多かったということでありましたけれども、近年は、大学を卒業して、地元を活性化させたい、そういった意見が学生のほうから多く聞こえるんだというようなことも伺いました。そういった意味では、やはり朝来市も若い方々が活躍できる場、

そういったものを設けていく必要がある、そういうふうを考えておるところであります。

さて、本日の高校生議会は、模擬議会でございましたけれども、執行権がない私ども議員が、執行権者の立場になったつもりで答弁をさせていただきました。どの質問につきましても重要な事項でありまして、我々も答弁するにはいろいろ調査をしなければならないこと、あるいは改めて調査をすることで勉強させていただいたこと、そういった本当にいい機会になってございますし、若い方々の発想によって気づかされた事項等々もございました。昨年申しましたように、皆様からいただいた意見や御提案、そういったものを実現する仕組みづくりが必要だということをお願いしたわけでありまして、先日の議会運営委員会の中で、やはり同じようなこと、仕組みづくりが必要だということで皆さんから御提案いただいた意見や内容、そういったものを進めていこうということが確認されました。引き続き、委員会において協議がされていく項目もございます。委員会へ傍聴に来ていただいたり、これを契機に政治に関心を持っていただく、そういったこともお願いしたいと思いますし、引き続き、御意見をいただければというふうに思っております。

結びになりますけれども、生野高校、和田山高校の両校の関係者の皆様方には、いつも御協力をいただき、誠にありがとうございます。引き続き、御理解と御協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

最後に、皆様方の今後の御健勝並びに御活躍を祈念申し上げまして、講評とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

○**議会事務局長（宮元 広司君）** ありがとうございました。

以上をもちまして、令和5年度朝来市議会高校生議회를終了します。

お疲れさまでした。

午後3時36分閉会
